





写真 1. 御山神社登り口。

して誉田別命, 伊邪那岐命, 伊邪那美命, 天照大神, 応神天皇, 伊波比主命, 宇加野御玉命を祀る, 社伝によれば僧空海の来りて教を布きし時, 三國嶺に上りて靈異を見, 一祠を立てて加越能三州の鎮護神とせり, 当時は七堂伽藍の制にして僧坊棟を列ね, 本郡(羽咋郡のこと)黒川(かほく市黒川)及び加賀河北郡能瀬及び横山, 越中砺波郡桜町處に華表(神社の鳥居)を建て, 三州の守護にして新に任に就くもの必ず奉幣して国土の安寧を祈れりといふ, 天正十二年佐々成政末森の戦に敗れ, 加賀を経て退くや, 途能瀬の華表前に於て落馬せしかば, 大に怒りて火を其の堂塔に放てり, 其後居村の座主といふもの, 神体を該村字御山といふ所に下し, 下河合, 上河合, 瓜生, 牛首四ヶ村の總社となりしが, 寶曆年中村社改正の際, 各村別に産土神を祭祀することとなれり, 然るに明治四十年一月本社へ下河合村社伯耆社, 上河合村社神明社, 牛首村社白山社, 瓜生村社八幡社, 下河合無格社稻荷社の五社を合併し, 村社御山神社と改称すべき旨許可せられ, 同年九月合併済みとなれり, 明治四十一年四月八日神饌幣帛料供進を指定せらる,(羽咋郡誌)

下河合 上河合村の枝郷という(仮名帳). 天正一二年(1584)九月, 佐々成政が越中国沢川村から当地に至り, 休息したという(能登志徴). 同一九年一二月前田利家が織田信長の旧臣不破源六広綱に宛行ったなか(能登)に下河合村五九〇俵がある(「不破源六宛文書写」加越能文庫).

・真宗本願寺派善行寺は天正十七年(1589)創建(貞享二年寺社由来書書上).

不破源六広綱...美濃の人. 父は不破河内守光治・彦三権内・道貞(通貞・通定とも). 父の後を襲ぎ, 竹ヶ鼻城(現・岐阜県羽島市)を襲ぐ. 長男は彦三を名乗り金沢市彦三に広大な屋敷を構えた. 源六広綱は権内の次男で彦四郎友綱ともいう. 父は美濃の斉藤氏に仕え最後まで忠節を尽くし, 斉藤氏滅亡後, 織田氏に仕え外交面で活躍. 柴田勝家に従って越前に. 越前龍門寺城の城主となったが越前で死去.

広綱も織田信長に仕え, 天正十二年(1584)織田信雄・徳川家康を援けて羽柴秀吉と戦ったが敗れ, その後, 前田利家に仕えた. 慶長5年(1600)東軍に加わった前田軍の大聖寺攻めに於いて発病し歿した.

【江】享保九年(1724)家数41, うち頭振17(「押水組巨細帳」岡部文書). 畑作物・大豆, 小豆, 大麦, 稗, 黍, 蕎麦, 粟, 芋(からむし), 麻, 菜種, 野菜類. 稼は炭焼, 杪(細枝), 柴, 漆, 桑, 楮, 蚕, 芋紬(からむしの糸). 集落は本村と南方赤倉山南中腹の尾山. 家数44(うち頭振2)・人数204(以上元治元年「押水組巨細帳」岡部文書).

御山神社は集落南方の標高約260米の尾山頂部に鎮座. もと赤倉山権現といい瓜生村・牛首村・上河合村・当村の入会惣社で, 神事は越中国砺波郡水島村(現富山県小矢部市)長谷川氏が管轄した(享保九年押水組巨細帳など). 明治四〇年(1907)下河合の稻荷社(旧毘沙門天), 瓜生の八幡社, 牛首の白山社, 上河合の神明宮を赤倉山権現に合祀して御山神社と改称.(石川県の地名)

頭振... 加賀藩, 大聖寺藩, 富山藩および能登土方領で用いられた無高(土地を持たない)百姓の称. 名称の起源は不明. 五代藩主前田綱紀のときに遊民と改めたが, 元禄三年再び頭振に改められた. 小作・日用取・小商売・大工・木挽・塩師・漁師・船持などを職業とし, なかには富裕な者もいた. 元禄六年加賀藩が切高仕法によって本田畠の売買を公認した際, 頭振の取高も許された. これを頭振入百姓と称した.

- 山方・浦方の村々や、郡方支配の城下周辺、宿場町・門前町などに多く居住した。
- ・下河合に存した神社は村社御山社（菅田別命）・村社伯耆社（伊波比主命）・無格社稻荷社（宇迦之御魂命）。
- 県内に存する赤倉（蔵）神社・・・新宮赤蔵社。旧志雄町新宮の集落東方にあり、須佐之男命を祀る。旧村社。原の赤蔵山にあった赤蔵権現への登山口に祀られた赤蔵権現の新宮。赤蔵山は口能登の山岳信仰の一拠点であったが、十六世紀後半までに解体して新宮だけが村の鎮守として名残をとどめるにすぎなくなった。
- 赤蔵権現は白山系修験に属したと言われ（志雄町史）祭神は素盞鳴命すさのおのみことで多くの真言宗坊舎があったという（羽咋郡誌）。（石川県の地名）
- 旧郷社赤蔵神社（旧田鶴浜町三引）  
主祭神 大山津見神おおやまづみかみ
- 由緒 赤蔵権現とも称される。推古天皇七年に幣帛を納められたと伝え、後白河天皇の御代百二十ヶ寺の社僧を置かれたが天正年中の兵火（上杉謙信の能登攻略）に罹る。
- その後長九郎左門尉宮社宮築神田等を寄付し長家の祈願所とした。明治三十九年神饌幣帛供進神社に指定。大正五年郷社に昇格。（石川県神社誌）
- 上河合 氏神は赤倉山権現（現御山神社）。産土神うぶすなは神明宮であったが、明治四十年（1907）御山神社に合祀。
- 上河合とも記された。天正十九年（1591）十二月前田利家が織田信長の旧臣不破源六広綱に宛行つた知行地に上河合村五五〇俵がある（「不破源六宛文書写」加越能文庫）。
- ・真宗大谷派慶専寺きょうせん是天正十九年（1591）創建（貞享二年寺社由緒書上）。谷内正順師の出生寺。
  - ・真宗大谷派善西寺ぜんさい是天正十九年創建（前掲由緒書上）。
- 【江】享保九年（1724）家数30，うち頭振6（「押水組巨細帳」岡部文書）。元治元年（1864）家数45，うち頭振四，人数240（元治元年「押水組巨細帳」同文書）。畑作物・菜種，大豆，大麦，稗，黍，蕎麦，粟，蕨わらび，芋の子あさお，たばこ，麻芋（あさいと）。稼は布，裂織さきおり（細く裂いた布・絹地を緯として織り込んだ織物），繭糸，楮皮，苧紬，杣，堅炭，俵（「村鑑帳」上河合区有文書）。（石川県の地名）
- ・上河合に存した神社は，村社神明宮（天照大御神）。
- 牛首 天正十二年（1584）九月佐々成政の軍が越中国沢川村から当地に至ったという（三州志）。同十九年十二月前田利家が織田信長の旧臣不破源六広綱に宛行つたなかに牛首村六二〇俵余がある（「不破源六宛文書写」加越能文庫）。
- ・真宗大谷派性善寺しょうぜん是天正十六年（1588）創立。
  - ・木ノ窪の真宗大谷派円通寺是天正十七年創立。（貞享二年寺社由緒書上）。
  - ・同派願清寺は天文年間（1532～55）の創立とされ，天保十二年（1841）石川郡北間村（現金沢市）に移転。明治十三年願清寺の支坊が創立されたが昭和初年廃絶（寺院明細帳）。
- 【江】元治元年（1864）集落は牛首・木ノ窪・白山で，家数78，うち頭振2，人数386。畑作物・大麦，小麦，菜種，粟，黍，稗，蕎麦，苧，苧紬，紺屋灰こうや，桑，楮（「押水組巨細帳」岡部文書）。
- ・牛首に存した神社は，氏神は赤蔵山権現いりあひに入会。神明宮（社）（伊邪那美命）は明治に入り白山社と改称，同四十年（1907）御山神社に合祀。（石川県の地名）
- 瓜生 天正十九年十二月前田利家が織田信長の旧臣不破源六広綱に宛行つたなかに瓜生村三三六俵がある（「不破源六宛文書写」）。
- ・真宗大谷派慈雲寺是天正九年（1581）の創立。（貞享二年寺社由緒書上）
- 【江】享保九年（1724）家数49，うち頭振17，他村懸作百姓3（「押水組巨細帳」岡部文書）。元治元年（1864）家数43，人数212。集落は上出21と下出22。畑作物・大豆，小豆，大麦，小麦，菜種，蕎麦，粟，稗，苧，麻，野菜類。稼は苧紬，炭焼，漆，柴，桑，楮（「押水組巨細帳」）。氏宮は赤蔵権現（御山神社）に入会つたほか，集落北方山腹に応神宮・諏訪大明神があった（享保9年巨細帳など）。明治に入り応神宮は八幡



写真 2 . 白山社 .

社と改称 (羽咋郡誌). (石川県の地名)

- ・ 瓜生に存した神社は八幡社 .

## 2 . 白山社 旧村社 上大田 175

主祭神 いざなみのみこと 伊邪那美命

いにしえ 由緒 古, 村が六戸の頃, 草分けの一人である正

信というものが馬場山という所に勧請創祀したと伝えられている . 明治 39 年十二月二十九日神饌幣帛料供進神社に指定された . (石川県神社誌)

白山社 . 大田にあり, 村社にして祭神は伊邪那美命なり, 往古村の戸数僅に六戸なりし時, 正信といふ者馬場山に於て伊邪那美命を産土神として鎮座せるに創るといふ, 本社は明治三十九年十二月本県告示によりて指定せられ, 神饌幣帛料の供進使参向することとなれり, (羽咋郡誌)

- ・ 天正十九年 10 月前田利家が不破源六に宛行った知行地に太田村 (ま) 一千三五八俵余 (うち荒分六八八俵) がある (「不破源六宛文書写」加越能文庫) .

- ・ 浄土真宗本願寺派勸修寺は, 文亀二年 (一五〇二) 河北郡気屋村で創建され, 天正 14 年当地へ移転 .

- ・ 浄土真宗大谷派教円寺は天正年間の創建 .

【江】享保 9 年 (1724) 家数 80, うち頭振 23 (「押水組巨細帳」岡部文書) . 天保の飢饉で死絶した家数 23 . 畑作物・大麦, 小麦, 大豆, 小豆, 菜種, 粟, 黍, 稗, 蕎麦, 芋, 野菜類 . 稼は炭焼, 芋紮, 杪, 柴, 桑, 楮, 漆, 瓦焼, 蚕 . 元治元年 (1864) 集落は馬場出 (で) 84 軒, 出村前 6 軒で家数 90 軒,

うち頭振 1 人数 491 (巨細帳) . (石川県の地名) 河合谷を流れる大海川については, 下記の記録がある .

大海川尻川 . 川尻川は能州羽咋郡に有, 常に歩涉也 . 出水には往還海際洲入りて, あやまち有 .

洲入とは俗言にして, 砂落入りて踏所不定, 歩む中に足深く砂に入りて, 或は死する事あり .

加州高松浦の十町計北砂山に, 加州・能州境の表に大石を山根に建たり . 海際より四町計東也 . 水源は一水, 羽咋郡牛首村の中 木窪山より流出づ, 又一水瓜生村山より出て, 上河井村 (ま) の上にて合流す .

此村の東の道を越中宮島谷と云 . 今石動へ加州の浦方能州四郡より往來の道也 . 上河井村南より東へ上れば, 南に加越能三州の境山あり . 是を三國峠と云 . 一里塚の如きの小山なり . 坂を上れば右の方に有 . 吉倉山は加州也 . 村山は越中なり . 上河井村は能州なり . 諺に曰, 三尺之縄係牛令食三國之艸とは, このところなるべし . 又一水は賣達山より出で, 高松浦より道二里 .

賣達家数八九十軒, 古此山より金出づと云 . 今は金山絶えたり, 末森峯へ一里有 . 此川水出る時は, 川上に二ツ屋村有り . 其向にて涉瀨有 . 今濱より南の村々の者, 高松邊へ往來の道の瀨也 .

不案内の者は人の渉るを見て可渉 . 今濱より一里十五町行けば一宮氣多神社也 . 其半道ばかり右に瀧谷金榮山妙成寺有 . (加越能大路水経巻 下) p 24 昭 6・12・25 発行 石川県図書館協会

### 祭神の出自と性格

以下に, これまで挙げた二座の神社の祭神とその性格について分析する . 祭神を同じくする全国の有名神社も記した . (註 あまつかみ たかまがはら 天神族 : 高天原系の神, 地祇族 : 出雲系の神, 天孫族 : 神武天皇以後の系統)

神社庁に登録の 2 社以外に三國山山頂に三國山社または三國権現がある . 文政社号帳によれば祭神に おあやまずみのみこと 大山祇命を挙げ, 加賀国河北郡の八ノ谷村・池ヶ



写真3. 三国山社.

原村・興津村, 能登国羽咋郡下河合村・上河合村・瓜生村・牛首村, 越中国砺波郡嘉例谷村(現小矢部市)の八カ村の入会守護神としている。修理も八カ村で行い, 神職は砺波郡水島村(現小矢部市)の長谷川氏が務めたという。伝承によれば天正十二年(1584)佐々成政の兵火にあって三国山社の七堂伽藍は焼失し, 神体は下河合村地内の赤倉山権現(現御山神社)へ移したという(河北郡誌)。現在の石造の神体には安政四年(一八五七)の刻銘がある。三国年番の祭祀は現在興津・下河合・嘉例谷の三集落で執行され, 神職も旧三カ国が年番で奉仕している。(石川県の地名)

#### 1. 天照大御神 [天神族]

御山神社(下河合)・・・旧神明社(上河合)咩  
別称: 天照大神, 天照皇大神, 大神大日靈貴神。

父はイザナギノミコト。皇室の祖先とされている。イザナギの妻2. 伊邪那美命は火の神かくつちのみこと迦具土命を産んだため, 陰部に大火傷を負った。この火傷がもとで亡くなった。イザナギは黄泉の国へ妻イザナミを尋ねて行き, そこに変わり果てた妻を見る。地上に逃げ帰ったイザナギは, 嫌な物を見た穢れを洗い浄めるため, 筑紫ひむかの日向の橋のおど小門の阿波岐原あわぎはらで禊ぎを行った。左目を洗った時, 光と共に生まれた美しい女神。高天原の支配者。

- ・太陽の神・養蚕, 織物の神。国家安泰・産業繁栄の神。
- ・三重県伊勢市, 伊勢皇大神宮内宮

#### 2. 伊邪那美命 [天神族]

御山神社(下河合)・・・旧白山社(牛首及び木ノ窪)・白山神社(上大田)

別称: 伊邪奈美之命, 伊弉冉神, 伊弉冊神。

夫イザナギとともに多くの神産んだが, 火の神カグツチを生んで陰部を火傷し黄泉の国へ下る。白山比咩大神くくりひめ(菊理媛), イザナギ, イザナミと共に白山比咩神社の祭神。瓜生の白山社は近世十一面観音(イザナミの本地仏)を祀っていた。

- ・創造神・万物を生み成す女神
- ・イザナギ・イザナミを祀る神社 白山市鶴来町・白山比咩神社・滋賀県多賀町・多賀神社

#### 3. 伊波比主命 [天神族]

御山神社・・・旧伯耆社(下河合)

別称: 斎(いわい)主神。

経津主神ふつ(布都御魂)と同神。父はイザナギ。イザナギが妻イザナミの死の原因であるカグツチの首を斬った時, 剣の元に着いた血から生まれた三人の神のうちたけみかづちのおの一人。建御雷之男神たけみかづち(武甕槌命)と同神。藤原氏の氏神。

- ・剣神・武神・軍神・雷神
- ・茨城県鹿島市・鹿島神宮(武甕槌大神)
- ・千葉県香取市・香取神宮(経津主大神または伊波比主命・配祀神・姫大神・武甕槌神・天児屋根命)
- ・奈良県奈良市・春日大社(建甕槌命・経津主命・天児屋根命・比売神)

#### 4. 宇加野御玉命 [天神族]

御山神社・・・旧稻荷社(下河合)

別称: 倉稻魂命。

父は素盞鳴命。母は神大市比売命。穀物の神。特に稲の精霊とされ, 稻荷神社の祭神。「稻成り」の意。伊勢神宮外宮げくう(豊受大神宮)の祭神。豊受大神とようけの(豊宇気毘売神)またの名を大宜都比売神, 保食神ともいう。但し「古事記」ではそれぞれ三柱の神に分けて記載してある。

- ・五穀豊穰・諸産業繁盛の神。
- ・京都市伏見区・伏見稻荷大社。愛知県豊川市・豊川稻荷。佐賀県鹿島市・祐徳稻荷



写真 4. 上大田白山神社奥殿縁の下の五輪の塔部分（火輪）2 基。

5. 応神天皇 [天孫族]

御山神社・・・旧八幡社（瓜生）

別称 誉田別命・品陀和気命・大鞆和気命・ヤマトタケルの息子である、第 14 代仲哀天皇と神功皇后の子。第 15 代天皇となる。母神功皇后（ときには父仲哀天皇や武内宿禰）と共に全国約 2 万とも言われる八幡神社の祭神。（第 1 位は稲荷神社の約 3 万 2 千社）百済や新羅から渡来人を受け入れ、新しい文化を招来した天皇。仁徳天皇は応神天皇の第 4 子。

- ・文武の神。
- ・大分県宇佐市・宇佐神宮。京都府八幡市・石清水八幡宮。神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮

6. 大山祇命 [天神族]

三国山神社・・・下河合・嘉例谷・興津

別称：大山津見命・大山積神・酒解神。父はイザナギ。母はイザナミ。子は足名椎命・手名椎命その子が櫛名田比売命（スサノオの妻）・木花知流比売命・石長比売命・木花開耶比売命（天孫瓊瓊杵命の妻）がいる。

- ・山の神・海の神・酒造の神。
- ・愛媛県越智郡大三島町・大山祇神社。静岡県三島市・三嶋大社

5-2. 誉田別命 [天孫族]

御山神社・・・旧御山社（下河合）

別称 応神天皇

おわりに

うま  
 美し谷・まほろばの里・津幡町最北の地区・河合谷・萩坂谷編から始まった「津幡町の神社と祭神の分析」はこの 8 回で完結である。

日清戦争を闘った 10 年後、明治 37 ~ 38 年（1904 ~ 5）の日露戦争は、莫大な戦費を要した。近代国家となって僅か 37 年。政府は戦費調達のため欧米諸国に国債を売り、戦争末期には国家予算も底をついていた。

アメリカ大統領の仲介で戦争は終結した。講和後、その実情を知らない国民は、戦果の少なさに各地で暴動を起こす。

明治維新、キリスト教を精神的な柱とする欧米先進国を真似て、日本は国家神道を選ぶ。政府は各神社に幣帛料を下賜した。日露戦争後、各国に国債の償還が始まる。下賜金の節約が急務となる。

全国の村々に「一村一社」の令が出、神社の統合が始まる。我が津幡町の神社も明治 40・41 年に多くの神社が合祀された。その顕著な例は「北中条三輪神社」と当地の「御山神社」で種々の異なった性格の神々が合祀されている。

しかし、津幡町で集落を超えて合祀が行われた神社は「御山神社」以外には無い。穿った見方かもしれないが、明治 12 年、16 年、19 年、23 年、28 年と数年おきに流行したコレラの流行と関係するのではないかと考える。

伝染病隔離病舎

明治以降になって疫病やコレラが流行し、特に明治 19 年（一八八六）のコレラは河合谷の人達の命を多数奪った。（津幡町史 726 頁）とある。

伝染病隔離病舎はその後、村役場として使用された。コレラの死者は瓜生地区に埋葬されたが、そのことを知る人も今は少なく、墓参する人もいないと聞く。

合祀の 20 年後の大正 15 年、禁酒による小学校建設工事が始まったが、多大な工費の調達は村民の団結で成し遂げた。森山村長、その前の大澤村長。彼らの深謀遠慮、村民の団結と理解が集落を超えた合祀を成し遂げたのかと考えるのは考え過ぎか？

御山神社に合祀された「伯耆社」の伯耆は鳥取県

西部である。伯耆修験の本山、大神山神社の祭神は  
大己貴命（大国主命）であるが、御山神社の祭神と  
して記載が無い。

津幡町の神社（特に山側）の境内には五輪塔や宝  
篋印塔などの石造物が多く祀られているが、河合谷  
では上大田白山神社奥殿、縁の下に五輪塔「火輪」  
が2個あるのみである。御山神社の石造物は改築工  
事の際、失われたものか？

瓜生地内に河原石の板碑がある。津幡町には菩提  
寺地内にも同様の河原石の物が存する。その他に、  
大熊の甲斐崎神社に笏谷石製陽刻五輪塔板碑・河内  
の八幡神社に河原石の板碑（現在行方不明）がある。

### 参考文献

河北郡誌．1920．石川県河北郡役所．  
石川県神社誌．1976．石川県神社庁．

津幡町史．1974．津幡町役場．

歴史の道調査報告書 第1集 北陸道（北国街道）．  
1994．石川県教育委員会．

日本の神様を知る事典．1995．阿部正路．日本文芸社．  
「日本の神様」がよくわかる本．2004．戸部民夫．  
PHP文庫．

日本の神々の事典．1997．園田稔・茂木栄 監修．  
学習研究社．

神道の本．1992．学習研究社．

古事記（上）．1977．次田真幸．講談社学術文庫．

古事記（中）．1980．次田真幸．講談社学術文庫．

古事記（下）．1984．次田真幸．講談社学術文庫．

日本書紀（上）．1988．宇治谷 孟．講談社学術文庫．

日本書紀（下）．1988．宇治谷 孟．講談社学術文庫．

古典日本文学全集 古事記・日本霊異記・風土記・

古代歌謡．1960．筑摩書房．